



開物成務

令和 6 年 6 月 20 日 (木) 発行

校長 津田 千由美

開成小学校の「すてきさん」

満開の紫陽花に彩られ、大変美しい景色が見られる季節となりました。開成小学校の池にも、紫陽花に負けないくらい美しい可憐なスイレンが咲き始めました。

さて、6 月 10 日は「時の記念日」。全校の子どもたちに、「時間」について意識を高くもってもらいたいと願い、朝会のテーマとしました。

「時間は□です」

さて、皆さんはこの□の中にどんな言葉を入れるでしょう

私の考えを 3 つ伝えます。

①今は亡き愛犬三太との最後の 30 分間、そばに寄り添って歌を歌ったり、思い出話をしたりしていました。最期、三太は大きく息を吸い込み、そのまま私の腕の中で亡くなりました。生きている三太と私の最後の 30 分間、私にとって時間は「命」でした。

②日本の電車は、時間の正確さでは世界一です。1 分どころか 20 秒遅れただけでも、ペナルティがつくほど正確に管理されています。私たちはこの正確さに恩恵を受けて、日常生活を送っています。私たちは時間に守られているので、自分自身も時間を守る必要があります。つまり、時間は「守らなくてはならないもの」です。

③最後にもう少し、皆さんにとって具体的な話をします。10 時 30 分、これは中休みが終わる時刻です。3 時間目の授業開始は 10 時 35 分。間の 5 分間は、授業の準備時間です。あなたは、守ることができていますか。

誰かが授業に 5 分遅れたとします。すると、その間授業が進められません。つまり、時間に遅れるということは、みんなの学ぶ権利を奪うということにつながります。

先生たちも、毎日 1 単位時間 (45 分間) の授業の準備をしています。時間に遅れると、計画していたことができなくなるので、私たちにとっても悲しいことです。こういう見方をすると、時間は「みんなのもの」になります。

(2 年生)

時間は「大切」です。時間はどんどん減っていくから、1 秒 1 秒大切にしていけばむだにないと思います。

(3 年生)

時間は「動き続けるもの」です。時間は一生動き続けるものだからです。

(4 年生)

時間は「戻せないもの」です。時間はどんどん進み取り戻せないからです。

(5 年生)

時間は「みんなにとって大切なもの」です。時間はみんなにとって人生のものがたりだと思うので、時間はみんなにとって大切なものです。

(6 年生)

時間は「みんなのもの」です。先生たちが仕事をしている写真を見て、いろいろな先生たちが仕事をしていたので、時間はみんなのものなのだと思います。

この写真は、朝会から 2 週間後の 10 時 30 分に撮影したものです。

一斉に片づけを始め、一目散に教室に戻っていくすてきさんたちの姿がありました。



第 1 回学校運営協議会

令和 6 年度学校運営協議会委員の紹介 (敬称略)

石崎 雅美 (委員長) : 主任児童委員

三橋 修 (副委員長) : 自治会長代表

露木 明美 : 学識経験者

武田 翼 : PTA 会長

小砂 幸彦 : スクール・ボランティア・コーディネーター

上村 拓也 : 教育委員会

校長・教頭・総括教諭 (野地・尾形)

5月25日(土)は、今年度初めての学校公開でした。新たなクラスでの初めての授業参観ということもあり、子どもたちはいつも以上に緊張した面持ちでした。午後の引き取り訓練では、短時間で大変整然と全員の引き取りが完了しました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

また、同日、第1回学校運営協議会が行われ、委員の皆様から次のようなご感想をいただきました。

○自分の子が学校に通っていた時、先生方には常に真摯に向き合っていました。今後は学校の応援団として関わっていきたいと思います。

○教育において、保護者の影響は絶大です。学校でできること、家庭でできることを考えていきたいと思います。

○子どもたちは緊張していましたが、学校公開は学校での子どもたちの様子を見られるよい機会です。今後も、学校運営に地域の声を生かし、特色ある学校づくりを進めてまいります。

連携教育～他校とのつながり～

6月6日(木)3校時、かいせい学級では、町内小・中学校の子どもたちとリモート交流会を行いました。進級後初めての交流会だったので、自分の名前と好きなもの(こと)を伝えるということが、一人ひとりのミッションでした。

思い思いの発想で、伝えたいことを画用紙にまとめ、タブレット画面の前で自己紹介しました。発表を終えた子どもたちは、

達成感を得ることができ、一つの活動を終えるごとに自信につながっています。



6月17日(月)3校時、2年生が吉田島高等学校の先生・生徒さんたちと、野菜を通して交流しました。

まず、高校3年生の3人の生徒さんたちが、写真資料を提示しながら大変分かりやすく、トマトやナス、枝豆などの育て方を説明してくださいました。その後は、子どもたちと一緒にトマトのわき芽をとったり、草むしりを手伝ってくれたりしました。

子どもたちからのたくさんの質問攻めにも、生徒さんたちは笑顔で丁寧に答えてくれました。

すてきなお兄さん、お姉さんの姿に憧れの気持ちをもつ子どもたちも多くいたことでしょう。キャリア教育にもつながっています。



わたしのひとりごと

ネガティブ・ケイパビリティは、タイプ(時間対効果)を追究することは真逆ですが、新たなアイデアを生み出す創造性にもつながる力だそうです。なぜなら、よりよい答えを出すために、「もう少し考えてみよう」とか、「違う考え方がないかな」と、いろいろと広げて考えようとするからです。確かにタイプはよくありませんが、長い目で見ると効果がより期待できそうです。

「すぐに答えを出さなくてもいいんだよ。ちょっとモヤモヤするけれど、じっくりゆっくり一緒に考えていこう」すぐには解決できそうにない悩みを打ち明けられた時には、そんな言葉をかけてあげようと思います。

少しは心がホッとすることを期待して…。

モヤモヤ力を高めることは、生きやすい社会をつくっていく力につながる予感がします。

先日、家の本棚の整理をしていた時、「ネガティブ・ケイパビリティ」という本に再会しました。何年も前に読んで本です。すっかり忘れていましたが、しばし時間を忘れて読みふけりました。「ネガティブ・ケイパビリティ」とは、「答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える力」のことです。最近では、「モヤモヤ力」という言葉に変換されていることもあります。

「〇ちゃんと仲直りしたいけれど、なかなかできない」「前は仲が良かったのに、私のこと嫌いになっちゃったのかな」

繊細な悩みを抱える子どもたちが多くいます。悩みを誰かに相談できるという意味では、第一段階をクリアですが、解決できないまま、授業に参加する意欲までも失ってしまうことがあります。

子育て、人間関係等々、大人であつてもすぐには解決できない問題が散在しています。

